

授業科目名・形態	助産診断・技術学Ⅳ 演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	工藤 優子	実務経験の有無	有	開講期	4年前期

【授業の主題】

生理的現象である分娩を介助することは、母児の安全を保障すると同時に産婦が自らのすばらしい潜在能力に気づき、分娩に対する満足度が高くなるように支援していくことである。このことは、直接的に次世代の育成につながる重要な意味を持つ。分娩介助にあたり、生命に対する畏敬の念と、責任の重さを忘れずに母児の安全のために常に最善の支援技術が提供できるように準備しておく必要がある。本科目では臨地実習に向けて、出生を介助する援助技術を学び、分娩介助技術の基本と出生直後の新生児のケアの基礎的な知識と技術を習得する。

【到達目標】

1. 分娩各期の産婦のフィジカルアセスメントと助産過程を理解できる。
2. 分娩予測について理解できる。
3. 出生直後の新生児のアセスメントとケアについて理解できる。
4. 正常分娩の介助について理解できる。

【授業計画・内容】

- 第1回 出生直後の新生児のケア①
- 第2回 出生直後の新生児のケア②
- 第3回 産婦の支援
- 第4回 分娩経過に沿った助産ケア①
- 第5回 分娩経過に沿った助産ケア②
- 第6回 分娩経過に沿った助産ケア③
- 第7回 分娩期の助産過程とアセスメント①
- 第8回 分娩期の助産過程とアセスメント②
- 第9回 分娩期の助産過程とアセスメント③
- 第10回 分娩期の助産過程とアセスメント④
- 第11回 帝王切開分娩と異常出血時の対応
- 第12回 新生児分娩時障害
- 第13回 正常分娩の分娩介助①
- 第14回 正常分娩の分娩介助②
- 第15回 フリースタイル分娩

【授業実施方法】

講義・演習

【授業準備】

これまでの学習および教科書・資料・参考文献を復習し、常に知識・技術を活用できるように予習して臨むこと。

【主な関連する科目】

基礎助産学、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ、助産診断・技術学Ⅲ

【教科書等】

助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期. 医学書院
 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生時期・乳幼児期. 医学書院

【参考文献】

竹内 省、高橋眞理子編集：分娩のしくみと介助法 メジカルビュー社
 北川眞理子、内山和美編：今日の助産改訂第3版 南江堂
 武谷雄二他監修：プリンシプル産婦人科学2産科編第3版 MEDICAL VIEW
 その他は授業の中で適宜提示する。

【成績評価方法】

レポート70%、演習及び実技試験30%により総合的に評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

特定機能病院において助産師として勤務しハイリスクの妊産褥婦、新生児のケアを行ってきた。臨床での根拠のある看護実践の大切さを伝えたいと思う。

【学生へのメッセージ】

助産技術習得のために必要な知識と技術です。積極的に自己学習を積み重ね、確実に身につけましょう。